

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 57 号

発行日
2025.08. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○今夏の我が家は大変である！酷暑より、アリが怖い!!

酷暑も大変であるが、実は、我が家の今年の夏は、ある小動物？(何のことはない「小アリ」!)の来襲に、大いに困らせられている！昨年もそうであったのだが(確か帰省中の長女親子が、寝場を2階に移したことも、それが原因であった？孫が、何かに刺されたという事で！ただし、その時は、その小アリの仕事とは分らなかった！)、今年のそれは、何故か、それを遙かに超える壮絶なものである(本人は少し減っている！)！

どこから侵入してくるのか？我が奥さんの必死の防護(窓枠や壁坎をテープで塞ぐ等！)にも拘らず、彼奴らは、じきに(本当である！)、あちこちで姿を見せる！その攻防の日々は、まさに酷暑に勝るとも劣らずのそれであるが、まさか、こんなことになるとは？私の方は、こんなことを、まだ悠長に書いておられるわけだが、我が奥さんは、おそらくそれどころではない(これを見て、一つや二つの恨み言を言うのかもしれない？笑?)!!とにかく、とんでもない日々なのである！

ちなみに、今、こんなことを書くのも蠱惑ものかもしれないが、昔懐かしい「童謡」の中では、こうした小動物(とは限らないが！)を、可愛く歌ったものが少なくない！(ここで思い出されるのが、「おつかいありさん」(応は調べてみた！)はともかく、「森のくまさん」という歌である！まさに、歌の世界では、可愛い熊(さん)なのであるが、近年では、毎年、その熊(さん)に襲われる事件が絶たない(今年も特に多い！)そして、死者も多くなっている！)。そんなことを思いながら、今回の「あり騒動」を記す次第である！

ただし、童謡に謳われている小動物やペットしての大や猫等の可愛さやいじらしさを、決して否定するものではない！

○こんな企画で迫って来られると……

ところで、この時期になると、マスコミは、いわゆる「戦争(終戦/敗戦?)」に関わる記事を、数多く発信してくる！(せめてこの時期には、平和の尊さや戦争の悲惨さを、世に伝えていかなければいけない！)それが、マスコミの使命？であるということであろうが(特に沖縄では？)、多少？年中行事の一つのような感もある!!決して、そのようなスタンスを悪く言うつもりはないが、ここで書きたいことは、今年も、何故か違った受け止め方となつたということである(80年という節目でもある?)！

その原因の一つは、地元新聞社(○社)の記事である！それは、私の知り合い(教え子の父親Iさん/元中学校教師↓K町の教員等)の回想記事であるが、娘(次女)小学校の教頭(のインタビューに答えるという形のものであった！断片的に知り得ていた「沖縄戦」の過酷さ、そして戦後の厳しさが、一人の老人(86歳)決してそう見えないが？笑?)の語りとして、誌面一杯に散りばめられていた(2日間に亘って!)。偶然見つけた記事であったが、懐かしい？Iさんの、しかも父娘でのそれであったので、ついつい深読みしてしまつた(通常は、多くは、見出し読みで終わっている!)、内容と企画の両面で、感慨深いものであった(知り合いであったからかもしれないが?)！

すぐに、Iさんに電話をして、この記事のいきさつ(子ども達の近況も)を聞いたが、どうも、娘さんからの持ち込みがあったようである！(新聞社と彼女が、どういう合意で行ったかは分からないが(記事紹介には書いてあつた?)、とてもいい企画であつたということである！)

○「推し(活)」に想つたその人の人生が豊かになればよい!

次に、ここでは、最近よく耳にする「推し」や「推し活」について、少し語っておきたい！(直接の動機は、福岡に住む次女が、「推し」である(多分そうであろう?)、ある日本の3人組ポップロックバンド(ここでは名前を伏せる！ネットで調べてみたが、詳しい情報が載っていた！)そう言えは、孫のJが、昨夏、カラオケで、そのバンドの曲を歌っていた！(難しそうな曲であつたが、よくマスターしていた!)のコンサートチケットが手に入つたと、年甲斐もなく？(燥い)でいた！そして、関連グッズも買つて、部屋に飾っていた！その言動が、何とも不思議に映つていたのである(LINE経由！)そして、過日テレビ番組(NHK)で見た、大谷翔平の「推し」(達の人生模様が、何故か、心に刺さつたのである!!)

そこで、「推し(活)」とは、「自分のイチオシのアイドルや芸能人、キヤラクターを決めて、さまざまな方法で応援する活動のこと」と、「推し」の対象は人によってさまざま。アイドルや芸能人、歌手、スポーツ選手、声優、YouTuberなどリアルに存在する人間に対して：アニメや漫画のキヤラクター、Virtualなど、現実には存在しない対象に対して：また、建築物や鉄道、仏道(像?)など、人物以外を推すことも…また、一人を推すこともあればアイドルグループをまるまる推す『箱推し』という推し方も…推し活に似た言葉に『オタ活』が…オタ活とは、『オタク活動』の略語で、当初はアニメや漫画、ゲーム、コスプレなどのサブカルチャーの趣味をより深めるために行う活動：最近では、サブカルチャー以外のさまざまな趣味に対して使われるように…ともあつた。

最後に、ここが重要であると思われるが、『推し』は応援している対象：「オタク」は応援している人：ニュアンスの違いはあるが、推し活とオタ活は同じような意味…。ただし、「推し」ができる、推しのために仕事や自分磨きを頑張ったり、コンサートやイベントに行くことで行動範囲も広がる。大切な仲間ができる人も…推し活は人生をより豊かにしてくれる活動。ハマりすぎには注意が必要だが、興味がある対象があれば深掘りして推し活を楽しむことで日々の生活が充実するかも…ともあつた！ある意味それは、最早「必需品」の一部なのかもしれない!! (井上)

○知的エンターテインメント！凄い世界・凄い人達！ ○こちら側にも、凄い世界、凄い人達がいる！

さて、こちらの方では、少し格調高い？（偏見？）話題を取り上げておきたい！これもまたテレビ番組のことで、恐縮であるが、本当に凄い世界、凄い人達がいるものであつた！最近では、特にそれを感じるわけである！一つは、「知探求フロンティア タモリ・山中伸弥の？」（びっくりはてな）であり、一つは、「NHKアカデミア」である！双方共に、NHKの番組であるが、よくぞここまで創り上げたものである！

前者は、「タモリ・山中伸弥・吉岡里帆の豪華MCが、世界にあふれる感動！」「と好奇心！」「とことん迫る」で（化学、医療、宇宙、歴史などの知的探求の最先端取材）、第1回は「AIは人間を超えるか」で、進行は吉村崇であった。「本格知的エンターテインメント番組。感動！」「と好奇心！」「に満ちあふれた世界の最先端をとことん探求する」であった（初回放送日：7月12日）。『未来を大きく変える最新のAIを使つて挑戦するのは、『笑い』の創造。AIが生み出す『笑い』をタモリはどうとらえるのか。AI開発の最先端が問いかけるのは、『人間とは何か』だった』ともある！

後者は、「各界のトップランナーたちが“今こそ、共有したい”を語り尽くす」ということで、「全冒のコンピュターサイエンティストで日本科学未来館館長」の浅川智恵子さんが登場していた（初回放送日：前編・2023年10月11日／後編・同年10月18日。好評につきアンコール放送。「テクノロジーで誰も取り残さない社会を作るためのヒントを語る。先が見えづらい時代、誰もがあがられる一線級の研究者やクリエーターは「なぜ輝き続けられるのか」「何を大切に、新しい価値を生み出しているのか」！豪華な講師陣が、専門的で独自性豊かに語る。若き日の不安や挫折、そこからたどり着いた「ゆるぎない知性」とは何なのか。毎回、参加者を募集し、生配信のオンライン講座ということである！頑張れ！真摯なメディア！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕577

○ここからは、九州での隠れた実績を追つてその12というところで、ここでは、後に近畿大和に移動したとも考えられる？「狗奴国（龍襲）球磨貫於」勢力（の二部？）の北上、そして近畿への移動について、改めて考察（龍襲）しておきたい。ただし、それが事実であるとしたら、それこそ通説の大幅冒険が必要となること必定である。ちなみにその狗奴国に特徴的な土器（免田式土器）がある時期北部九州（香嶺山麓にも出現し、さらには、高度な製鉄遺跡「龍襲」が「博多遺跡」に見られるようであり（熊本、特に阿蘇周辺は、鉄器・鉄線の製造が盛んであった！）わゆる「龍襲リモノナイト」を使つた！、また、「山門」という地名の移動／移植（翁湯郡と瀧野郡と筑前山門郡）もあつたのではないかと！

もちろん、こうしたことが、その「狗奴国」の北上を示す、とりわけ「卑弥呼」と「書」の期を不詳証拠とは言えないかもしれないが、かの「裝飾古墳」の出現地及びその経路（日本海経路）や、遠く房総半島にまで伝わった「天祖伝説」は、それを不詳証拠かもしれない（中南部九州に渡来した「倭人」は、現在、タイやミャンマー、中国南部の山岳地帯に住む少数民族、例えばヤオ族やシヨ族、東部ミャオ族に伝承されている！）これについては、まだまだ確証には程遠いが、稲作、あるいは言語・習俗における「呉／越」の影響は、おそらく彼らによるものと考えてよい！

だが、もちろん、それを実証する（後づけ）術はない？しかし、よくよく考えてみると、前に示した「海部氏」と「松野連氏」の系譜（両者は、ある時期までは同一？あるいは交錯している！「邪馬台国（連合）」の主要部族）からは、そうした南方系の人々の北上、近畿・東海・北陸、そして関東への移動がその順番と経路は、まだまだ判断はしないが、かなり鮮明に描き出される！そして、一見無関係にも思える「海部氏」と「松野連氏」の関係も、かの「目下部氏」を介在させれば、ある意味では納得のいくものともなる！すなわち、目下部氏は、双方に関係しているのでないかという点でも（事実、彼らは、一方では、例の「高良」大社（付近、他方では「龍」神社（付近）に、顔を見せている！）（つづく）

（編集後記）今、我が家は、束の間の、年一回の全体集合状態である！孫3人達も、とても大きくなり、以前のミニ台風？ではない！私自身は、最早何もしなければいけないが、我が奥さん（ばーば）は、相変わらず大変そうである！（井上／堂本

・戦後八十年！ 「ある」のは

一人ひとりの必死の歩み だがそれは括くれず！

・「推し」や「推し活」！

気がつけば それも「あり」と 感じ入り!!

・凄い世界 凄い人達！ 「推し」もよいが

「推して」知るも また沢に「あり」！

・メディアでなくても それは「ある」！

「推し」もあれば 「協働」も「あり」！